

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「子どもの気持ちを尊重するとは？」

1 みなさんは、どうしますか？

- ①「オムツを取り替えるよ」と子どもに声を掛けました。しかし、「積木で遊んでいるから嫌！」と言って、また遊び始めました。このままだとオムツがぬれたままです。
- ②子どもを学童保育に迎えに行ったところ、「友達と遊びたいから、帰りたくない」と駄々をこねました。このままだと夕飯の支度や明日の準備が遅れてしまいます。
- ③風邪を引いている子どもに、薬を飲ませようとしてしました。しかし、「お薬はにがいから飲みたくない」と泣き出しました。このままだと風邪が長引いてしまいます。



「子どもの意見を全て聞き入れること」＝「子どもの気持ちを尊重すること」でしょうか。全て子どもの思い通りにすることが「子どもの気持ちを尊重する」ではないと思います。大人は子どもの自立や成長のために必要なこと（他者に迷惑をかけていることも含む）と判断したときは、子どもの気持ちよりもそれを優先してよいと思います。上記のケースは、理由を分かるように伝え、「オムツを交換する、家に帰る、薬を飲む」を優先させるべきです。

子どもが決定権を誤解しないように、大人が決めることと、子どもが決めていいことを区別しないと、駄々をこねたり、泣いたりすると自分の要求が通ると、誤学習に発展することがあります。

2 「進路は子どもの気持ちを尊重したいです」

ある中学生の知能検査の結果は、発達水準が「非常に低い」レベルでした。両親には、検査での様子や得意なことを報告後、一斉指導で指導の工夫や支援員配置等の個別の配慮だけでは、当該学年の学習の習得・定着が難しいことを伝えました。両親は以前にも検査を受けていたので、想定内の結果であると納得しました。そこで、生徒のよさを引き出せる場として、特別支援学級への入級が話題になりましたが、お父さんは「本人のみんなと同じ学級にいたいという気持ちを尊重したいです」と話されました。

「子どもの気持ちを尊重する」という言葉は使い勝手がよいので、責任の所在を曖昧にしてしまうことがあります。「子どもの気持ちを尊重する」＝『子どもの意思決定に大人は口出しをしない』ではないと思います。大人は子どもが正しい選択をするために、自らの考えや経験談、客観的な情報に基づく選択肢を与えるべきです。その上で、最終的に子どもが自己選択・決定することが理想であると思います。



とれたて直送便



「人生＝選択×偶然×運命」（コロンビア大学教授：シーナ・アウエンガーの言葉）

「選択・偶然・運命」の中で、自分の意思でコントロールできるのは「選択」です。朝ご飯は何を食べようか、今日は何を着ていこうかなど、私たちは朝起きてから選択の連続で、一日約9,000回の選択を繰り返して生活しています。よい選択ができれば最高の一日となり、最高の一日を繰り返すと最高の一週間となり、最高の一週間で繰り返すと最高の一か月となり、最高の一か月を繰り返すと最高の一年になります、最高の一年を繰り返すと最高の人生になります。最高の人生を送るためには、「今」が重要なんです！